

# 2014年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社  
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2013年8月1日

2014年3月期第1四半期の決算概要を説明します。

## 決算概要

	13/3期Q1	14/3期Q1	増減率
売上高	959	1,111	+16%
粗利益	517 (53.9%)	570 (51.3%)	+10%
一般管理費	302 (31.5%)	361 (32.4%)	+19%
開発費	60 (6.3%)	76 (6.9%)	+27%
営業利益	155 (16.1%)	133 (12.0%)	-14%
(のれん等償却除く)	188 (19.6%)	173 (15.6%)	-8%
経常利益	130 (13.5%)	129 (11.6%)	-0%
純利益	82 (8.5%)	90 (8.1%)	+10%
EBITDA (営利+償却費)	232	227	-2%
期中平均レート	US\$ 80円 EUR 103円	99円 129円	



2013/8/1

©Terumo Corporation

2/20

2014年3月期第1四半期の決算概要について説明します。

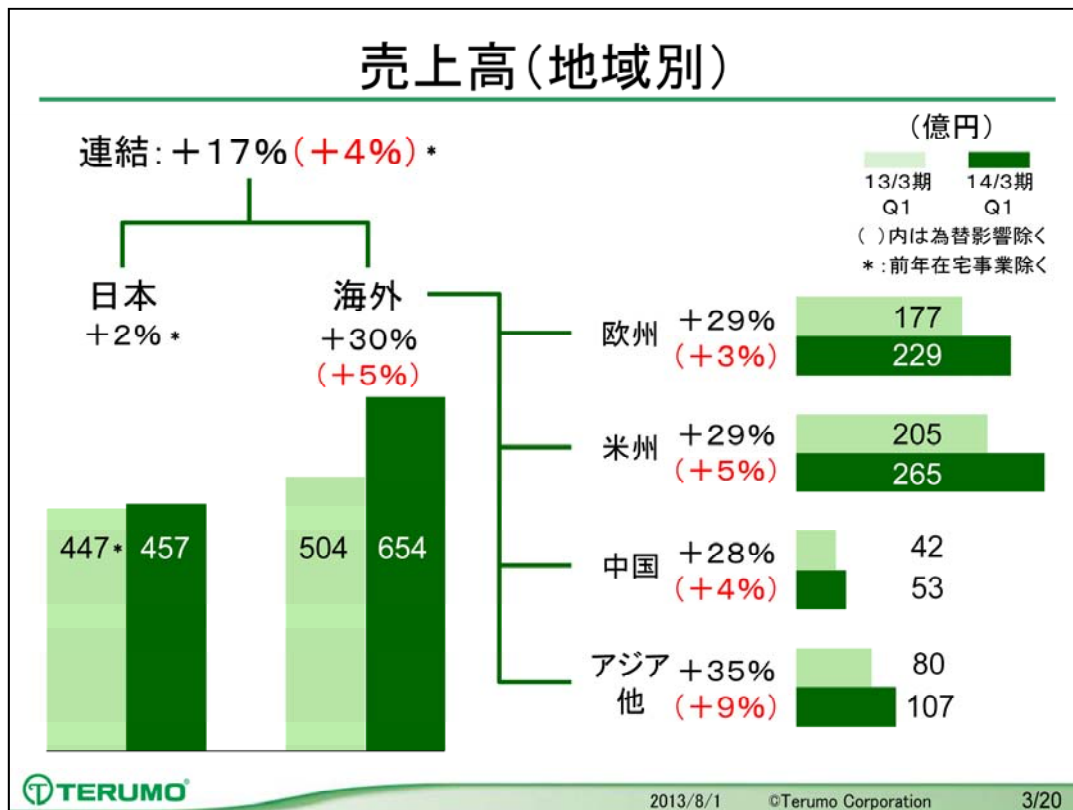
昨年度と比較して進んできました円安ですが、第1四半期の期中平均レートは1ドル99円、1ユーロ129円となりました。

この円安の効果もあり、売上高は、前期比16%増の1,111億円となりました。この売上高には125億円の為替のプラスが含まれています。

粗利益率は、生産性が大きく寄与した前年同期と比較して、2.6ポイント低下いたしました。販管費は、一般管理費は前期比19%増加、開発費は前期比27%増加、合計で前期比21%の増加となりました。為替を除く伸長については後半で説明いたします。この結果、営業利益は133億円、前期比14%のマイナスとなりました。

経常利益は借入金の金利負担等がありましたが、円安による為替差益で、前年とほぼ同額の129億円、当期純利益は、法人税等が減少し、前期比10%増の90億円となりました。

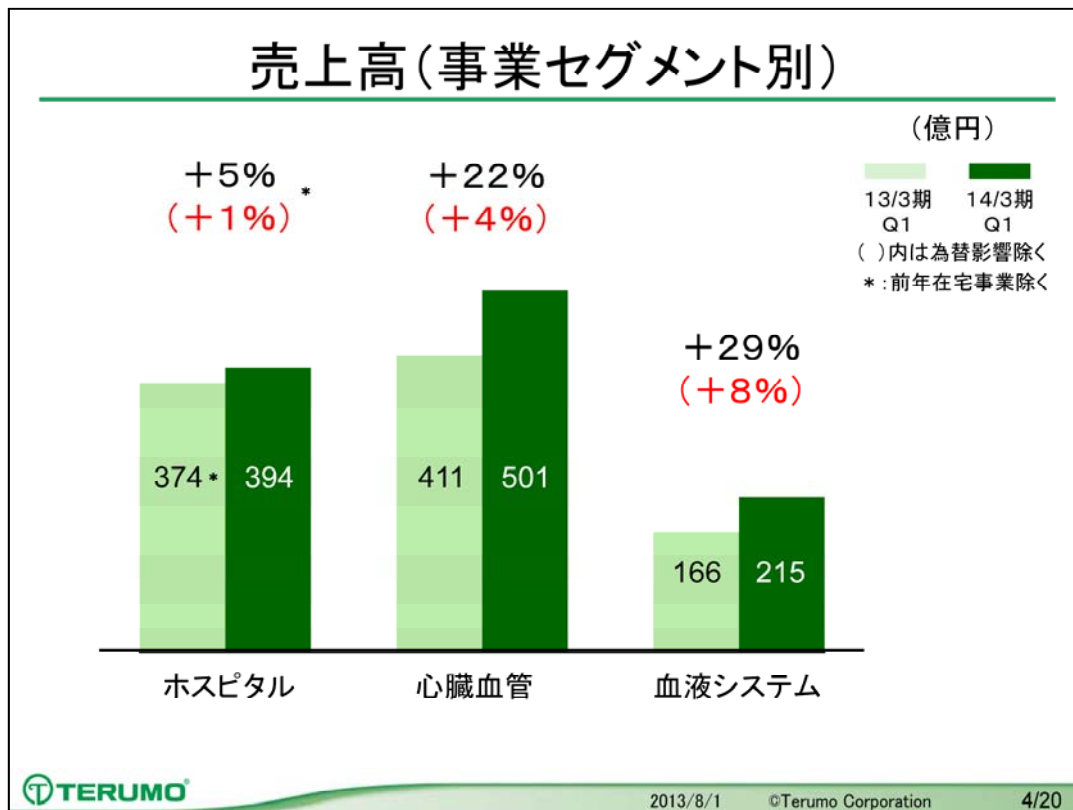
今回の第1四半期の決算は、上期業績予想に対して、ほぼ想定通りの進捗となっています。



地域毎の売上と伸長率を示したグラフです。カッコ内は為替影響、そして2月に譲渡致しました在宅酸素・在宅輸液事業の影響を除いた伸長率を示しています。

国内は、心臓血管事業や血液システム事業が順調に推移し、前期比2%の増加となりました。海外は、円安の影響を受け、前期比30%の増収となりました。為替影響を除くベースでは前期比5%伸長になりました。

為替影響を除いた伸長率を地域別にみますと、前年度の平均伸長と比較して、欧州と中国が低伸長になっています。これは特殊要因によるもので、後ほど説明いたします。



事業セグメント毎の売上です。

海外比率の高い心臓血管、血液システムは為替の影響を受けて、大きな伸長となっています。事業セグメント別、地域別のマトリックスでの売上については、次のスライドでご説明いたします。

## 事業別 地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	307 ( 1%)	87 ( 2%)	27 (-7%)	21 ( 4%)	3 (-23%)	37 (10%)	394 ( 1%)
心臓血管	121 ( 3%)	380 ( 5%)	143 ( 4%)	154 ( 7%)	43 ( 3%)	41 (-0%)	501 ( 4%)
血液 システム	29 (12%)	186 ( 7%)	59 ( 6%)	90 ( 2%)	8 (18%)	29 (24%)	215 ( 8%)
合計	457 ( 2%)	654 ( 5%)	229 ( 3%)	265 ( 5%)	53 ( 4%)	107 ( 9%)	1,111 ( 4%)

心臓血管のうち、カテーテルの海外売上は8%伸長。一時的な要因を除くと2桁(11%)成長継続。

- ✓ 欧州で新システム立ち上げ時の出荷遅れ -4億円
- ✓ 中国の代理店でニューロ製品在庫調整の影響 -4億円
- ✓ 米国での泌尿器科向け直取開始に伴う在庫調整の影響 -1億円

下段( )内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く



2013/8/1

©Terumo Corporation

5/20

事業セグメント、地域別の売上です。数字は売上高、カッコの数字は為替、在宅事業を除いた伸長率となっています。

ホスピタル事業では、国内でドラッグ&デバイス事業における受託ビジネスやDM事業が堅調に推移しました。海外では低収益ビジネスの見直しを継続していることもあり、低成長となっています。一方で、高収益製品であるスマートポンプなどの発売を開始しており、その効果は徐々に表れてくると思います。

心臓血管領域事業では、国内でノボリの売上が前期比マイナスとなりましたが、末梢動脈治療用ステント「ミサゴ」が順調に売上を伸ばしました。一方、海外では前期比5%の伸長となっています。これをカテーテルとCV外科に分けるとカテーテルでは前期比8%伸長となります。これまでのトレンドと比較して低伸長となりましたが、これは、表の下に記載しましたが、この四半期の特殊要因が影響しています。一つは、欧州での新コンピューターシステム立ち上げに伴う出荷遅れです。この影響で一部売上が第2四半期にシフトしました。また米国では4月から泌尿器科向けのビジネスを直販に変更しましたが、この四半期ではユーザーでの在庫調整の影響がでました。中国ではニューロ製品の代理店在庫調整により売上減となりました。この影響は既に改善傾向にあります。これらの影響を除くと、カテーテルの海外売上は前期比11%伸長と、2桁成長を継続しています。

血液システム事業では、国内で成分採血関連の製品が好調に推移するとともに、前期の在庫調整の影響もあり、大幅な増収となりました。海外では治療アフエーシスが引き続き好調に推移しました。

## 販管費

(億円)

	13/3期Q1	14/3期Q1	増減	増減率
人件費	127	154	+27	+22%
販促費	29	37	+8	+29%
物流費	25	27	+2	+8%
償却費	44	53	+9	+22%
その他	77	90	+13	+14%
一般管理費計	302 (31.5%)	361 (32.4%)	+59	+19%
研究開発費	60 (6.3%)	76 (6.9%)	+16	+27%
<b>販管費合計</b>	<b>362 (37.8%)</b>	<b>437 (39.3%)</b>	<b>+75</b>	<b>+21%</b>

( )内は対売上高%



2013/8/1

©Terumo Corporation

6/20

販管費の状況について説明します。

円安の影響を受け、一般管理費の対売上高比率は前期比0.9%増加して32.4%、研究開発費はカテーテル製品や血液システム製品の開発を中心に27%増の76億円となりました。研究開発費は年間予想の300億円に向けて計画通りの進捗となっています。

## 販管費（為替の影響を除く）

（億円）

	13/3期Q1 本年為替R調整後	14/3期Q1	増減	増減率
一般管理費計	347	361	+14	+5%
研究開発費	67	76	+9	+15%
販管費合計	414	437	+23	+6%

- 人件費 : +5%、+7億円 北米・中南米の販売力強化(カテ、ニューロ)
- 販促費 : +14%、+4億円 日本のカテ、北米のニューロ・ペリフェラルの販促
- 研究開発 : +15%、+9億円 血液システム(治療アフエーシス・血液自動製剤システム)開発費、ニューロ新製品開発費
- 物流費(+1%、+0億円)・償却費(+2%、+1億円)・その他(+3%、+2億円)



2013/8/1

©Terumo Corporation

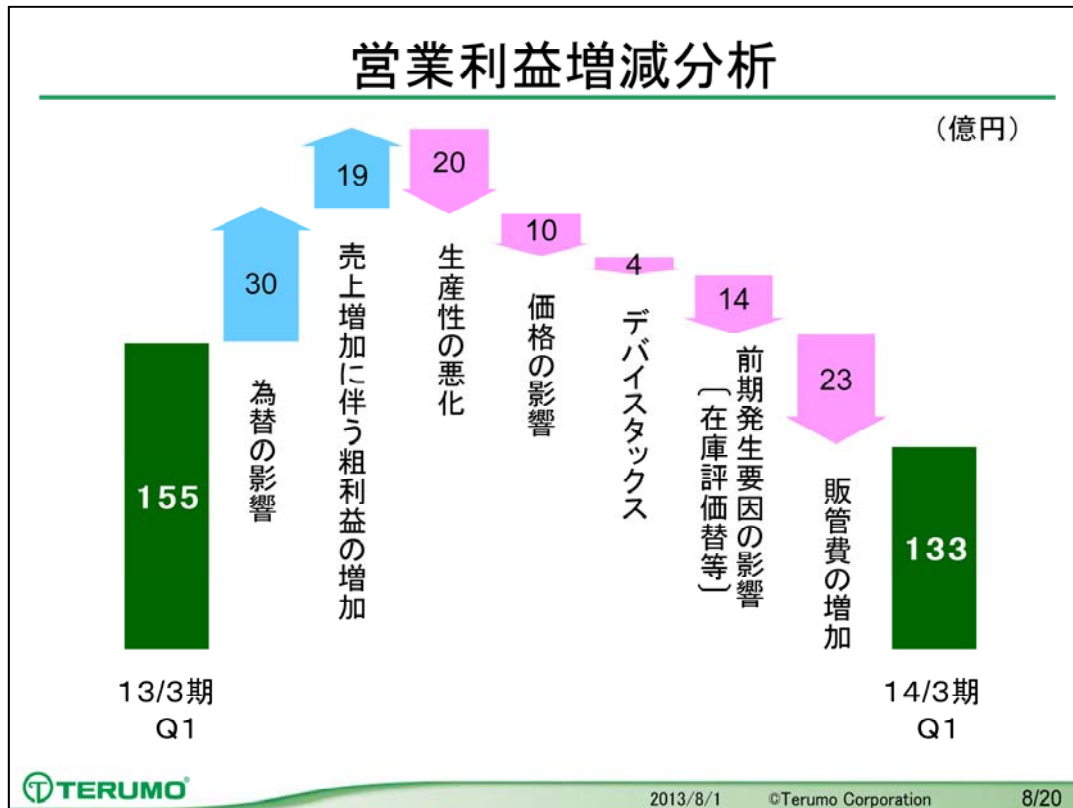
7/20

為替の影響を除いた販管費の変化を纏めました。

一般管理費は、為替の影響が45億円あり、実質 前期比5%増、14億円増加となりました。人件費に関しては、北米や中南米の心臓血管事業の成長分野を中心に、海外販売人員の増強を行った結果、実質 前期比5%増、7億円の増加となりました。

販促費は、主に日本でのカテーテルや北米のニューロ、ペリフェラルの販促費増加により、実質 前期比14%増、4億円の増加となりました。

開発費につきましては、血液システム、ニューロを中心に治験費用を含めた開発費を予定通り消化しています。



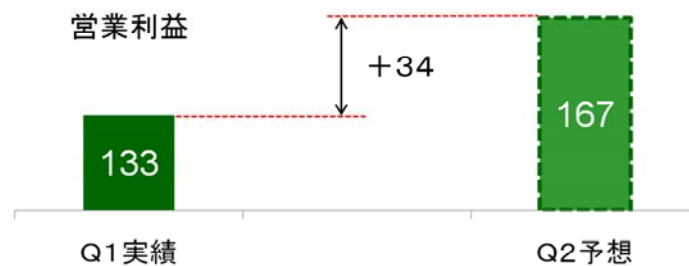
営業利益の増減分析です。

為替がプラス30億円発生しました。売上増加によるプラス効果もありましたが、新商品の立ち上げ段階での負担増や新たに導入した設備の償却費などのマイナス効果が発生しました。価格の影響や米国でのデバイスタックス、また前期に寄与した在庫の評価替えが、前期比較ではマイナスとして利益差額となりました。これらの要因により、営業利益は22億円減の133億円となりました。なお、新製品立上に伴う操業度は改善傾向にあり、在庫評価の影響とともに、今後縮小していく見通しです。



## Q1は想定通り。上期予想300億円の達成に向けて

(億円)



▶ Q1からQ2への増益要因

- ✓売上拡大に伴う増益 21億円
  - ・ 新製品など(ニューロ、ペリフェラル、スマートポンプ、血液自動製剤システム)
  - ・ 心臓血管のQ1の一時的な要因のリカバリー
- ✓TCVS品質コスト減少 8億円
- ✓DH II 研究開発費減少 5億円



2013/8/1

©Terumo Corporation

9/20

上期業績予想の営業利益 300億円に向けた進捗状況です。

第1四半期の営業利益はほぼ想定通りです。これをベースに、第2四半期では、34億円以上の利益増を計画しています。主な増益要因としては、ニューロ、ペリフェラル、スマートポンプ、血液自動製剤システムなどの新製品売上拡大による利益増、米国TCVS社の品質改善コストの減少、DH II開発費の減少等です。これらを着実に実行することで営業利益300億円の達成を見込みます。

## 中計新製品のローンチ状況

領域	製品	FY13	Q1	Q2
ペリフェラル	ステント(膝上)		○	
	バルーン(膝下)			
	ステント(膝下)			
脳	コイルアシスト・ステント			
	血流改変ステント		○	
	オクルージョン・バルーン		○	
心臓	新PTCAバルーン			○
	OFDI(血管内画像診断装置)		○	
	TRI用細物シース			○(米)
アブレーション	腎除神経カテーテル		○	
	TRI用腎除神経カテーテル			



2013/8/1









©Terumo Corporation

10/20

中期計画で提示したパイプライン製品のローンチ状況を説明します。

スライドに示した表は中期計画における各事業の製品パイプラインのうち、今期ローンチ予定の製品を抜き出したものです。まず、心臓血管領域事業では、ペリフェラル分野でのステントをはじめ、ニューロ分野で血流改変ステントとオクルージョンバルーン、心臓血管の分野ではOFDI、そしてアブレーション分野で腎除神経カテーテルの新製品をローンチしました。Q2では新しいPTCAバルーンを日本で、TRI用の細物シースを米国でローンチ予定です。

## 中計新製品のローンチ状況

領域	製品	FY13	Q1	Q2
血液システム	血液自動製剤システム (PRP法)		○	
	血液自動製剤システム (BC法)		○	
	成分採血装置 (血漿採血対応)			
	統合データ管理システム (TACSI対応)			
	細胞治療用装置 (骨髄幹細胞対応)			
輸液システム	閉鎖式輸液ライン			
	安全機構付き静脈留置針	 アジア	○	
	高機能輸液・シリンジポンプ		○	

その他 Q1ローンチ製品：

《心臓血管》 マイクロカテーテル (欧)、血栓吸引カテーテル (欧)、ベアメタルステント (日)、複雑病変用IVUSカテーテル (日)

《ホスピタル》 ペン型注入器用注射針 (欧)



2013/8/1

©Terumo Corporation

11/20

血液システムでは、欧州で血液自動製剤システムをローンチし、ホスピタル事業では、米国とアジアで安全機構付き静脈留置針をローンチしました。一方、中期計画のパイプラインには載せていませんでしたが、心臓血管領域事業でマイクロカテーテルや血栓吸引カテーテルを欧州で、そしてベアメタルステントや複雑病変用IVUSカテーテルを日本でローンチしました。また、ホスピタル事業でペン型注入器用注射針ナノパスを欧州でローンチしました。

今後もパイプラインの新製品や、機能追加品の確実なローンチはもちろんのこと、その後、販売する国や地域の拡大を図ることにより、当期の業績予想、そして中期計画の達成を目指します。

以上で、2014年3月期 第一四半期の決算概要の説明を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

---

## 参考資料

## 四半期の動き

(億円)

	FY12Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY13Q1 (4-6月)
売上高	959	960	1,039	1,065	1,111
粗利益	517 (53.9%)	488 (50.9%)	529 (50.9%)	522 (49.0%)	570 (51.3%)
販管費	362 (37.8%)	361 (37.6%)	385 (37.0%)	416 (39.1%)	437 (39.3%)
営業利益	155 (16.1%)	127 (13.3%)	144 (13.9%)	106 (9.9%)	133 (12.0%)

期中平均レート	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
US\$	80円	79円	81円	92円	99円
EUR	103円	98円	105円	122円	129円



2013/8/1

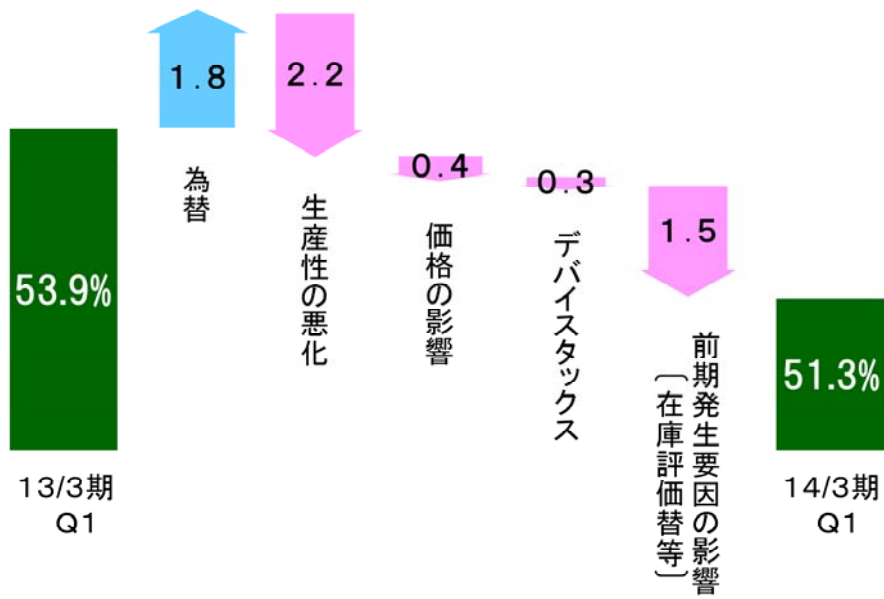
©Terumo Corporation

13/20

す。

# 粗利益率差異分析

(%)



## 設備投資と研究開発費

(億円)

	13/3期 実績	14/3期 見通し	Q1 実績
設備投資*	322	450	104 (23%)
償却費*	326	370	93 (25%)
研究開発費	271	300	76 (25%)

\* のれん・無形資産含む  
設備投資は取得ベース

%: 対年間見通し割合

## 為替感応度

(億円/年)

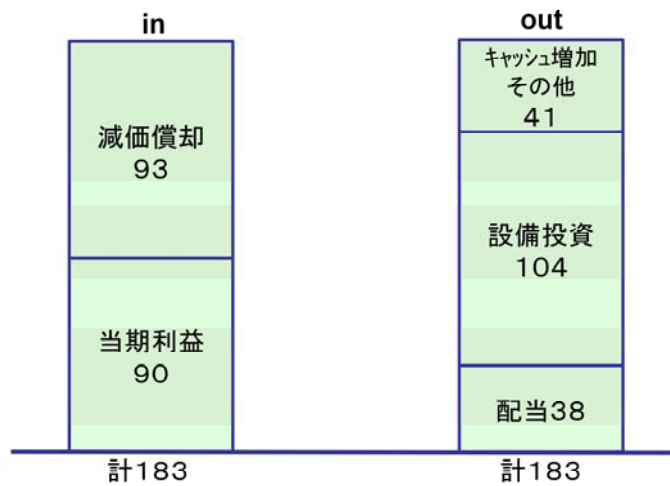
	ドル	ユーロ
売上高	17	7
営業利益	2	4



# キャッシュフロー

(億円)

## ■ 成長投資・借入金返済・株主還元を バランスよく実施



## 粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

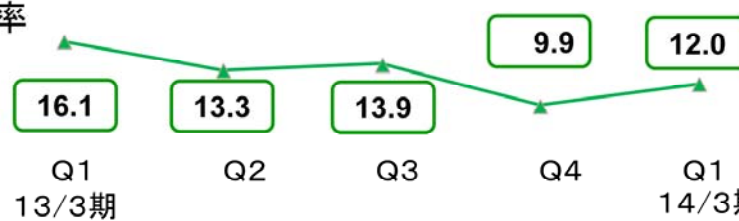
粗利益率



販管費率

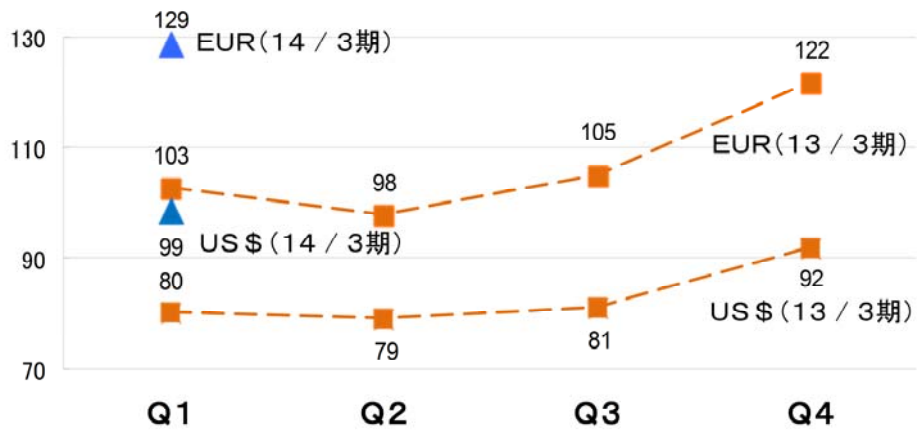


営業利益率



(各四半期の3ヶ月単位)

## 四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

## おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。